

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号			
法人名	医療法人 静巖堂医院		
事業所名	グループホーム 好日庵		
所在地	愛知県新城市副川字大貝津13番地		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成31年4月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

様々な利用者様の支援を行う中で、職員は成長し経験を積んできた。今年度は、これまでの愛知県認知症グループホーム連絡協議会東三河ブロックの活動と合わせて、「RUN伴in新城」の立ち上げにも協力し、参加した。地域や新城市ともつながりが濃くなり、協力し合える仲間が増えたことは何よりも心強く感じる場所である。近々、好日庵は2ユニットのグループホームとしてスタートすることが決まっている。新しい利用者様を迎えるにあたって準備の真っ最中であるが、好日庵の目標である認知症介護の地域の拠点と成るべく、これからも全スタッフで力を合わせ努力していく。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2374000384-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、職員による利用者に関する気付き等について、職員間で日常的に意見交換と情報の共有を行いながら、利用者一人ひとりの意向等に合わせた支援につなげている。日常的にも、毎日の申し送りの時間を通じて、職員間でミーティングの時間をつくっている。地域の方とも、母体が医療機関である利点も活かしながら、カフェや食事会の開催をはじめ、医療機関のスペースを複数のグループホームの利用者の作品展の会場として協力している。今年度については、「新城市RUN伴」の開催にホームが中心メンバーとなって参加している。企画から当日の開催まで参加していることで、市の福祉施策の推進への協力にもつながっている。ホームの新たな展開として、本年2月から2ユニットとして再出発することになっており、新たな職員体制のもとで利用者への支援を準備しているところである。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年2月7日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域社会を大切にしたい理念を事務所内に掲示し、実施している	ホームの基本理念を職員の支援の基本と考えながら、日常的なミーティング等を通じて、職員間で理念の共有と実践につなげる取り組みが行われている。また、理念をホーム内の複数の場所に掲示しており、日常的な意識にも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事に積極的に参加し、関わりを持つよう努めている	地域の方との交流に積極的な取り組みが行われており、併設の医療機関を含めた共有スペースを活用した様々な行事等が行われている。また、ホームでも認知症カフェの取り組みを行ってきた経験を踏まえながら、より前向きな交流につなげる構想が検討されている。	2ユニット目になるフロアーには、多くの方が入ることが可能な広い共有スペースが設けられており、今後に向けた様々な構想が考えられている。ホームの様々な構想が地域の方との交流に機会につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	在宅で介護をされている方々の相談にのっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームでの取り組みや状況を報告し、地域の要望も伺いながら話し合いを行なって、サービスの向上に努めている	地域の様々な分野の方にも参加を呼びかけながら、地域の方との情報交換やホームへの理解を深めてもらう取り組みが行われている。また、市内の他のグループホームの方にも参加を呼びかけており、会議を通じた交流の機会につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	広域連合の職員に、制度や加算の指導を仰いだり報告を行ない関係作りをしている	市担当部署へは、ホーム管理者からの様々な働きかけを行いながら、市の福祉施策への積極的な支援、協力が行われている。今年度については、市長にも参加をお願いしながら「新都市RUN伴」の開催が実現しており、多くの方の参加と協力が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての指針をもとに、身体拘束のないケアを行なっている	身体拘束を行わない方針のもとで支援が行われており、ホーム内には施錠を行わず、利用者が自由に過ごすことができるような支援が行われている。また、2ユニット目の開設に合わせ、ホームでは改めて職員研修の実施を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員同士が互いに理解をし、ストレスの少ない環境の中で、虐待防止をに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会、資料で知識を身に付け、必要時には活用できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には家庭訪問を行ない、生活環境や習慣を理解し、互いに不安や疑問点を無くし、解約や改定時も納得される説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や家族会、面会時を利用し、職員や他のGHの職員、民生委員、その他の外部者に意見を伝える機会を設け運営に反映させている	家族との交流会をつくりながら家族との交流を深め、要望等の把握やホームへの理解につなげる取り組みが行われている。重要事項説明書の苦情相談窓口には2名の職員名を記載している。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日の申し送り時やミーティングを利用し意見や提案を聞いており、運営に反映させている	職員間で日常的な申し送りの時間を活用したミーティングを実施しており、職員からの意見をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員面談の実施については、今までの法人代表者から各部署のリーダーに委ねる取り組みを始めている。	2ユニット目の開設により、新たな職員が増えることになるため、職員間の連携が難しくなることも考えられる。職員からの意見等に反映につながるホームの継続的な検討、取り組みにも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の年間目標や研修報告等で実績を把握し、有給休暇の取得や労働時間についても配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各自に適している研修の紹介を行ったり、本人の希望する研修を受けられるよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	運営推進会議やその他外部の行事で交流を行ない、近隣のGHで研修させて頂きサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	時間をかけてアセスメントを行ない、ニーズを把握し安心して利用ができるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの介護で困ったことや、今後の不安を十分に伺い、信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	十分に話し合い、本人と家族のニーズに合ったサービスの選択を行なっている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援される側、支援する側ではなく、対等のパートナーとしての関係作りをしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族を交えての食事作りや外出を行ない、協力しながら支援を行なっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅へ行くことや、馴染みのある場所や人との関係の継続を大切にしている	利用者との馴染みの方との交流については徐々に困難になっているが、利用者の中には、入居前からの友人が訪ねてきたり、家族の協力も得ながら行きつけの美容院を継続している方もいる。また、家族との外出等を通じた交流を継続している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者同士で楽しく支え合って生活できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご本人が亡くなられた後でも折に触れ関わりを持ったり、いつでも相談に応じられる体制にある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の関わりやセンター方式の活用で思いや希望の把握に努めている	職員間で担当制も活用しながら、毎月の細かな状況を報告する取り組みを行い、意向等の把握にもつなげている。また、日常的にもショートミーティングの時間を活かしながら、利用者に関する職員の気付き等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族や本人、または担当ケアマネージャー等を通じて把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人との関わりや受診時の情報等で把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的な担当者会議での意見や要望を活かして介護計画を作成している	利用者の身体状態等にも合わせた見直しが行われており、最長1年までには見直しが行われている。毎月の職員間での細かなチェックを行いながら、3か月でのモニタリングを実施している。また、日常的にもチェック表を活用した支援内容の把握も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	担当者が毎日の様子を個別に記録を行い職員間で共有し介護計画に活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	身体的精神的その他状況の変化に合わせて、その時に合ったサービスを選択している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の小学生と関わったり、神社の祭礼、町内の行事、畑作業等の資源の活用に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	信頼できるかかりつけ医に、本人・家族とも納得して診察を受け、職員も病状や薬を理解し支援を行っている	ホームの運営母体が医療機関であることで、法人代表者でもある院長による随時の医療面での柔軟な支援が行われている。また、管理者が看護師でもあり、日常的にも利用者の健康チェックや受診支援等、医療面での支援や対応が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護師や法人内の看護師との連携で、常に適切な対応が可能な状態である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、関係者と連絡を密にし、少しでも早く退院し、受け入れる体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	事前に本人と家族の意向を確認しておき、再度確認の上、本人・家族・医療・介護・その他、チームとして連携して支援を行っている	医療面での支援を行いながら、利用者のホームでの看取り支援にも取り組んでおり、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。利用者の身体状態等に合わせた家族との話し合いを行いながら、利用者、家族の意向に合わせた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所内の研修や勉強会、その他資料で学び、緊急時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月の訓練と合わせて、近隣のホームや住民との協力体制が整っている	避難訓練の際には、ホーム単独の訓練と併設事業所と連携した訓練の実施が行われており、職員間の連携に取り組んでいる。ホーム建物3階でもあり、利用者の避難誘導の確認が行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	ホームでは停電を想定した訓練を実施していたが、災害で発生した停電は3日間であり、予想を超えた停電を経験している。今回の経験が今後の取り組みにつながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	パーソンセンタードケアの考え方を基本に、利用者様を尊重したケアを心がけている	ホームの基本理念には利用者を尊重した対応を行うことを掲げてあり、運営法人の職員指針と合わせて、職員の意識向上につなげている。また、日常的も職員間で意見交換の時間をつくりながら、利用者に合わせた対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	様々の方法で働きかけ、自ら伝えることができなくても、自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日課に頼ることなく、家庭での生活のようにその日に行いたい事ができるだけ実現アするように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節、気分によってその人らしい設えができるよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作成、買い物、調理、配膳、片づけを共に行い楽しむことができている	職員でメニューを考え、利用者の好みや嗜好等にも合わせた調理が行われている。利用者も調理や片付け等のできることに参加した取り組みが行われている。おやつ作りや季節に合わせた行事食の他にも、身体状態等に合わせた食事形態の提供が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その日の体調に合わせ、十分な量が摂取できるよう支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行い、歯科医によるクリーニングも受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	認知症の進行に合わせ、その時点に合った排泄用品を選択するが、おむつ使用は最終的手段として対応している	A3サイズの業務日誌に利用者毎の排泄記録を残しており、毎日のショートミーティング等を通じて職員間で情報交換を行い、利用者に合わせて排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄を基本に考えながら、排泄状態の維持、改善を検討をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便周期を把握し、繊維質の食物や飲料水の量や軽い運動に気を配ることで、その人個々のパターンが把握できつつある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	基本的な入浴日は決めてあるが、それ以外でも入浴が可能な体制が整っている	利用者は週3回の午後の時間に入浴しているが、希望に合わせて入浴回数にも対応している。併設事業所に機械浴があり、重度の方にも対応している。また、季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯の他にも、外出先で足湯を楽しみ取り組みも行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その人のその日の状態によって、夜間の良眠、日中の休息が確保できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書を職員全員が確認し理解している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人の気分や体調に合わせ、好きなこと楽しいことを行い、活気のある過ごし方ができるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や散歩、外食を行い、時には家族の協力を得て出かけられるよう努めている	利用者一人ひとりに合わせた外出支援が検討されており、ホーム周辺への散歩や買い物等を通じた外出を行い、日常的に外出の機会をつくる取り組みが行われている。また、年間を通じた外出行事が行われており、様々な場所への外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	可能な方には、買い物に同行し支払いができるよう支援を行う		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族との会話を希望される時には電話を使用する支援を行い、季節に応じた手紙(年賀状等)を書く支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた掲示物や植物で四季を感じられるよう配慮し、清潔な中にも適度な生活感がある居心地の良い空間作りを心がけている	ホーム内は広めの空間が確保されており、利用者が好みの場所で過ごすことができる配慮が行われている。通路の壁面には、利用者の作品を掲示する等の雰囲気づくりが行われている。テラスには野菜類が植えられてあり、利用者の楽しみにもつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファやこたつで一緒に過ごすことができたり、別のスペースで独りになることもできるように家具の配置や空間作りに配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使い慣れた家具等、何でも持ち込むことができ、落ち着いてゆっくりと過ごすことができる居心地の良い居室であるよう配慮している	居室には、利用者及び家族の意向にも合わせた家具類や好みの物の持ち込みが行われてあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、家族の写真を掲示したり、自身の作品を飾る等、利用者にとって居心地の良い生活環境につなげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	各居室には名前の表示があり、共用部分も表示でわかり易く、トイレの扉は明るい色で統一されている		